

第2回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：令和2年2月18日（火）午後1時30分～2時57分

場 所：鳥取市役所市民交流棟（麒麟スクエア）2階多目的室1

出席者：委員 出席 下田敏美委員、田中節哉委員、石塚康裕委員、青木博之委員、
中島文明委員、小坂祐司委員、江本克也委員、甲田紫乃委員、
松本公彦委員、谷上雄亮委員、清水 博委員、平尾節世委員、
坂本朋子委員、贅川 清委員
欠席 沼田宏一委員、谷田一富委員、田賀成史委員、太田章太郎委員、
中村 暁委員
オブザーバー 鳥取県地域づくり推進部東部地域振興事務所 谷口 透 所長、
兵庫県但馬県民局総務企画室 下村秀和 室長
事務局 鳥取市政策企画課長 塩谷範夫、香美町企画課長 水垣清和
鳥取市政策企画課係長 加藤るつ
若桜町ふるさと創生課長 谷本 剛、智頭町企画課課長補佐 國岡まゆみ、
八頭町企画課主任 保木本幸雄
説明者 鳥取市市民生活部次長兼地域振興課長 田中富治

1 開会

2 あいさつ

3 新規参画委員の紹介 香美町選出委員 中村 暁（なかむら さとる）氏

4 議事

○連携中枢都市圏連携事業の進捗状況について【資料1】《事務局》

○事業の見直しについて【資料2】《事務局》

《委 員》24 外国人観光客受入事業について 案内板は日本語・英語の標記は見るが、多言語表記はまだ少ない。更新時には対応することであるが、古くなって取り換えるという数は少ないのではないかと。意識的に取り換えていく方向性がなければ進まないのではないかと。

68 ごみ減量化推進事業について 単年度要因ということであるが、どこの市町も人口が減少しているのにごみが減少していない。いろいろな事業には取り組まれているが、減量化に意識的に取り組まれているのは少数の方ではないかと思う。全体の意識改革が必要である。

《事務局》観光案内板については、予算が限られている中で対応しているが、外国人観光客を迎えるにあたり、必要なものである。御意見を伝えてまいりたい。

ごみの減量化について、全体の意識が高まっていくことが必要とのこと、東部広域行政管理組合を通じて、鳥取県東部環境管理公社へも伝えるとともに、各市町においても取組があり、伝えてまいりたい。

《委員》24 外国人観光客受入事業について 全国的にプロモーションの取組が中心である。アジア圏の各課題があるものの、右肩上がりが増えてきており、今がチャンスである。受け入れ環境については、看板はすべて多言語表記すればよいものではなく、道中の目的地への案内看板、お金が必要なところ、お店のメニューなど、まとまった取組が必要である。DMO では、国で進められている世界基準の受け入れ地をつくる取組に手を挙げており、専門家を入れ、受け入れ環境の整備についても進めたい。予算がかかるものではあるが、麒麟のまち観光局においてマネジメントして取り組んでいく。

《オブザーバー》

さきほどの事業の後継者についての御質問について 県全体でも考えているテーマである。昨年12月に出た帝国データバンクの後継者不足県の第2位が鳥取県であった。第1位は沖縄県であったが、事業者自身が若い世代であるため、まだ後継者を検討していないという状況で、実質は鳥取県が第1位というショッキングなデータである。鳥取県事業承継ネットワークで対応しているが、昨年度ベースで、15%程度の後継者を見つけることができているが、後継者がいないということは事業者にとってはデリケートな問題であり、なかなか相談に来られないという実態がある。

市町村・商工団体・産業団体に、後継者不足の声がどのように届くのが重要であり、金融機関の各支店長、商工団体の巡回指導など、あらゆる面を捉えて、取り組んでいる。また、採算ベースでは成り立たないという状況で商店等がなくなった場合に、地域としてどう残していくのかということを経営版の事業承継ということにも取り組んでいる。まだまだ成功事例は少ないが、本腰を入れて進めていこうとしている。

《委員》47 社会福祉協議会各種相談事業について 社会福祉協議会において、各種相談事業を行っており、KPIについても12月末現在で93件、年度末見込みが134件としている。ほぼ鳥取市からの相談案件であり、連携町からの案件がほとんどなく、連携の成果が出ていない状況がある。KPIについては、いろいろな記載があるが、中には本件と同様のものであるのではないかと。販路拡大の取組において、販売額ではなく、合同市の開催回数が指標となっているなど、実際に成果が上がるようなもの、評価されるものになるようにKPIの見直しが必要ではないかと思う。

《委員》KPIは大きな目標に対して、数値としてどこまで達成できたのかを見る指標ではないかと思う。4 地域商社支援事業の部分に関わっているが、KPIの数値達成後の状況について、関わった事業者・利用者にどれだけメリットがあったのかということにコミットしていくことが大切である。売上・利益が上がったのか、最終的にはそういった部分が大変であり、そこに対して、我々がしっかりと支援していくことが重要であると考えている。

《委員》大学において佐治町に関わっているが、佐治町で食事処がなかったり、交通手段がなかったり、大学生の活動をする上で支障をきたしている部分がある。子ども食堂にも取り組まれていると思うがどうか。

《事務局》公共交通については、路線バスの運行していない地域において、乗り合いタクシーでの対応を実施しているところであるが、運転手不足が課題である。運転手確保が難しい中で、市の有償運送をシルバー人材センターへの委託により実施するなど、対応している。今後、3年間を目途に、地域の中で運営組織をつくり、

地域の声に応えることができないかという取組を始めているところ。

- 《委員》連携中枢都市圏の取組を進めるには、公共交通の利便性が重要であると思う。事業者も努力をしていかないといけないが、一方で人口減少しており、ドライバー不足が深刻になっている。その対策について、いろいろな方法が検討されているが、バス・タクシーにとられず、NPO 法人・有償、無償運送・共助交通など、様々な方法があり、あらゆる方法を考え、事業者・行政・住民の方、総動員で考えてまいりたい。
- 《委員》運転手問題は、兵庫県も同じであり、利用者が減少していく中で、乗務員の確保が難しくなっている。バス事業を進める上での課題は、一つの答えだけでは解決できないことが多い。利用者が少なくなってきただけでなく、若い乗務員の確保が困難になってきている。二種免許取得者の8割が50歳以上ということで、10年後には60歳以上になってしまう状況。また、若い乗務員を確保したとしても、自分の時間の確保を重視されるので、一人二役というような仕事量を増やすようなことはお願いできない状況である。いろいろな補助等のメニューがあるが、一つの視点で考えるのではなく、広い視点・視野で考えて支援いただけるとよい。
- 《委員》14 農業担い手育成塾運営事業について 自身が農業に携わる中で、県内でも東部のみ農業者のネットワークがないように思っている。ネットワークがないために、20代、30代の農業者に情報が届いていないということがあるので、力を入れて進めてもらいたい。行政がよい施策を考えられていても、実際には農業者に届いていないという状況があるので、ネットワークをつくり、情報を必要とする方に伝わるように、連携中枢都市圏全域で進めてもらいたい。
- 《委員》16 麒麟獅子舞を生かした圏域活性化事業について 先般、麒麟獅子舞が国の重要無形民俗文化財に指定されたが、今後の取組には含まれていないか。
- 《委員》観光について、文化観光という考え方が出てきており、2020年から文化庁が観光庁と一緒にあって、無形民俗文化財の活用について考えようという動きが出てきはじめてきたところ。世界目線からも世界遺産等、守りながら活用するといった方向になってきており、文化観光については2020年に大きな動きが出てきている。教育委員会サイドの話になるかと思うが、今後、連携中枢都市圏の事業としても上がってくるのではないかと思っている。
- 《委員》新温泉町には、重要無形民俗文化財の指定にあたっては、但馬地域の麒麟獅子舞保存会が非常に力をいれており、若い世代を積極的に参加させるなど継承も含め取り組んでいる。観光と並行して、時代に合った継承・保存の仕方についても、地域とともに取り組むことを本ビジョンの中に入れていただけるとよい。
- 《委員長》東部医師会においても、会報の表紙に麒麟獅子舞を採用したところ。会報は新潟・松山・津山、県内医師会・東部の会員に送付しているので、表紙を通じて麒麟獅子が目についたらよいという会員からの提案があり、PRをしている。
- 《委員》麒麟獅子舞については、岩美町においても熱心に取り組んでいる。ぜひここで取り上げてもらいたい。

以前も話をしてところであるが、連携事業が90事業もあるが、内容のレベルは様々だと思う。中核市、連携中枢都市圏で予算を組んで進めていくべき事業と、事業主体が別にあって支援をする事業、各市町村の積み上げである事業があると思うが、90事業の見直しが必要ではないか。連携により掛け算で効果が高まり、マイナス要素がなくなるようなものについて、重点的に取り組む必要がある

のではないか。そういった事業に絞って投資をし、取り組んでいってはどうか。

《事務局》連携中枢都市圏の取組は、平成 30 年度から始まり、今年度が 2 年目である。本圏域の事業は目標期間を 5 年間として、総務省にも認められているところなので、3 年目となる令和 2 年度を中間年として見直し作業を行いたい。また、本日御意見いただいた KPI も含め、見直しの対応をしてみたい。各事業については、取組を進める担当課を集めたプロジェクトチームを設けているので、その中で検討作業を進める。

麒麟獅子舞の後継者育成について、首長会議においても意見があったところ。

16 麒麟獅子舞を生かした圏域活性化事業において 日本遺産「麒麟のまち」推進協議会の令和 2 年度の取組において、担い手育成にも取り組むこととしており、子どもを対象とした麒麟獅子舞の講座を設けることとしている。

《委員》商工会議所で日頃からいろいろな課題を解決したり、検討したりしているが、どの業界においても、担い手やリーダーがいるかいないかが重要である。連携を進める中で、地域の中でいろいろな考え方の人がおられるので、担い手・リーダーとなる方を中心にして、事業を展開し新たな価値を生み出せると、連携の価値は大きいと思う。

《委員》ケーブルテレビ事業に携わっているが、鳥取のケーブルテレビは中山間地域を中心としているので、そういった地域に出向くことが多い。地域で PR したいことなどあれば、情報をいただければ取材対応できるので、声をかけてもらいたい。

《委員》小中学校の子どもが、学校からおたよりをもらってくると、保護者が必ず目を通すことになる。学校給食に郷土料理が出てくるなど、教育を通じて、家庭の中にいろいろな形で情報が入っていくとよいと思う。栃木県にいる友人が、学校給食で鳥取県のどんどろけ飯が出たとフェイスブックに掲載しており、いろいろな角度で PR が可能なのだということを感じた。

《委員》『麒麟のまち春祭り 2020』PR

○因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏への香美町の加入について

【資料 3-1, 2, 3】《事務局》

《事務局》平成 27 年に麒麟のまち創生戦略会議が発足後、これまで麒麟のまち圏域の活性化についての協議に、各市町の首長とともに加わってきた。平成 30 年度に形成された連携中枢都市圏の取組においては、香美町においては、時期尚早ではないかということで、見送ったところであるが、この 2 年の間に DMO が立ち上がり、積極的な広域連携が進められてきたところである。さらに、去年は麒麟獅子舞を生かしたストーリーも日本遺産に認定され、香美町の多くの文化財が構成文化財に加わっている。また、山陰近畿自動車道の浜坂道路が開通し、鳥取市へも近くなった。また若桜町側の国道 482 号が開通し、若桜町との住民レベルでの交流も始まっている。鳥取市をはじめとする鳥取県東部とのつながりは非常に身近になってきたと実感されるところであり、これを機に連携中枢都市圏を一緒に進めてまいりたいと思っている。

《オブザーバー》

今回、香美町がこちらの圏域にも加入されるとのこと。香美町・新温泉町は兵庫県但馬エリアの圏域にも属されており、両圏域に属されることになる。事業を推進される面で、両方のメリットを享受していただければと思っている。

連携事業の関係では、情報共有や助言等といったゆるやかな連携から、相互の利用や派遣、支援、補完といった取組、最終的には共同実施といった連携がある。連携のあり方・連携のパターンを分かりやすく記載し、1市6町で連携していることが住民に伝わるよう表現を工夫されたい。

《オブザーバー》

国道482号の畚米トンネルが開通し、岩美トンネルについても先日貫通し、これから開通していくことになる。岩美道路の整備については、集中的に投資しているので、それが完成した暁には、麒麟のまち連携中枢都市圏の人の交流、事業の連携についても、一層進むのではないかと期待している。

また、90の事業については、県としても東部振興事務所としても、バックアップしていかなければならないもの、一緒に考えなければいけないものが多々あるかと思っているので、今後も協力・相談等お願いしたい。

5 その他 (なし)

6 閉会